

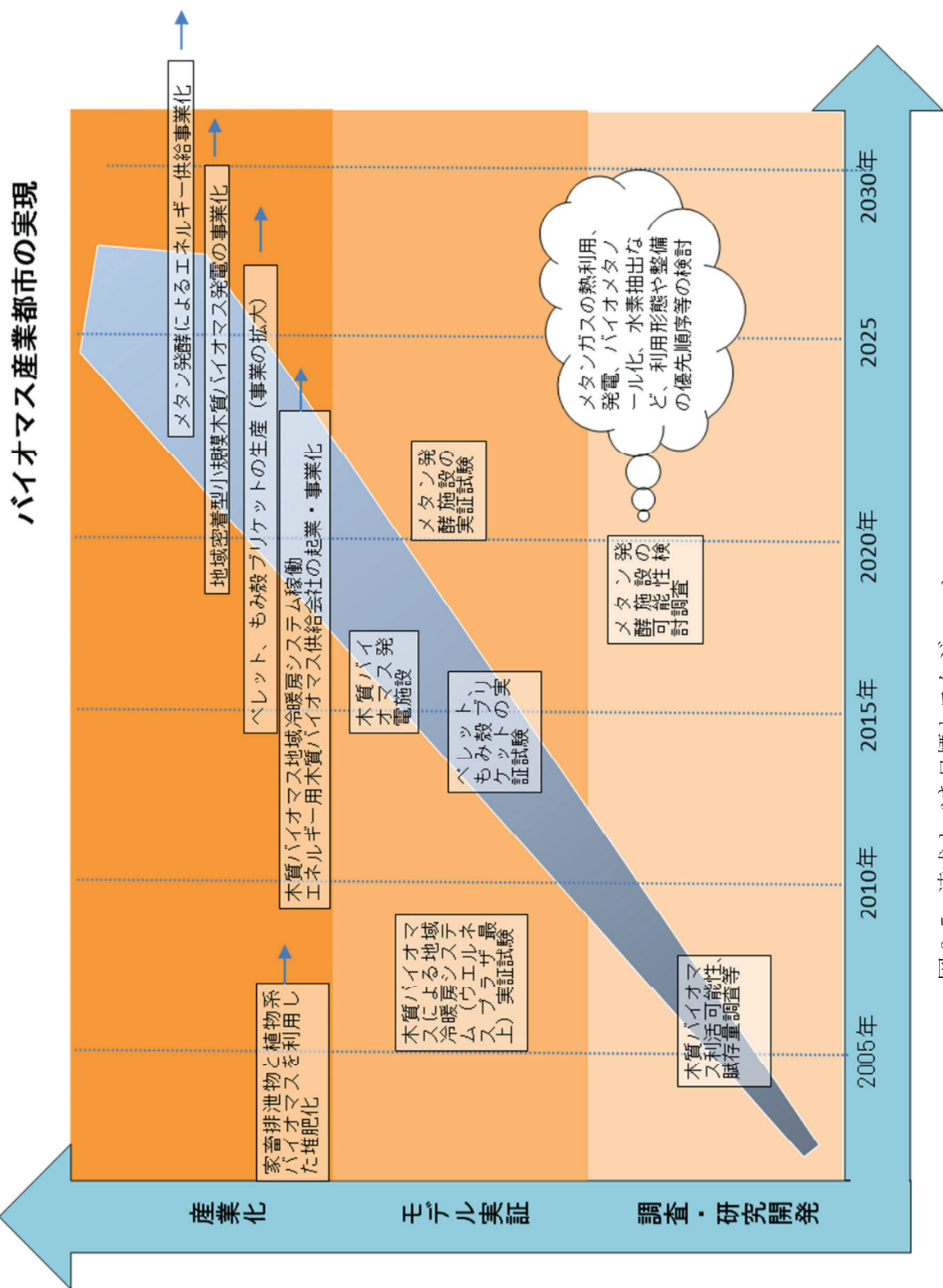


図 3-5 達成すべき目標とスケジュール

3.4 バイオマス産業都市へ向けての取組手順

1.現状の農林生産物の高付加価値化とカスケード利用の推進



- ・木質バイオマスのカスケード利用を可能にする素材生産⇒A、B材の販売促進⇒地域産木造住宅への支援、隣接地に立地予定の大規模集成材加工工場へのB材供給
- ・農業系バイオマスの循環利用と良質堆肥生産のための堆肥センター建設⇒農産物のもがみブランド化

2.木質バイオマスによる地域熱供給システムの拡大と、新たに取組が始まったバイオマス利用の事業化推進



- ・計画中の若者定住モデルタウンへの木質バイオマスによる地域熱供給システムの導入
- ・もみ殻の固形化燃料の商品化と量産化
- ・新たな需要増に対応したチップとペレットの共同加工出荷施設(チッププラント+ペレットプラント)の建設

3.最上町にふさわしい新しいバイオマス利用への取組



- ・地域密着型の小規模木質バイオマス発電施設と地域農業との連携
- ・稲わらをはじめとする植物系バイオマスや家畜排泄物を利用したメタン発酵プラントの可能性検討

4.多様なバイオマス産業の事業化による地域活性化



- ・多様なバイオマスエネルギー関連事業の展開によって、若者の就業の場の創出、エネルギーの自給自足化を実現する
- ・災害時にも緊急対応可能なエネルギー供給システムを持つ安心、安全で活気ある町の実現

5.バイオマス産業モデル都市の実現

図 3-6 バイオマス産業都市へ向けての取組手順

4. 事業化プロジェクト

4.1 基本方針

- これまで築いてきた木質バイオマスによる地域熱供給システムを一層高度化し、安心・安全で、低炭素化社会にふさわしいモデル都市を実現します。
- 未利用となっている圃場残渣や食品加工残渣、家畜排泄物等を、本町の特産品であるアスパラガスやにらの畑に良質な堆肥として循環利用を図るための拠点を構築します。
- 余剰の植物系バイオマスや食物残渣、下水汚泥などの廃棄物系バイオマスを利用したメタンガス化やバイオメタノール化の可能性を検討し、実現性の高いシステムの導入によって、新たな産業創出と環境負荷の少ない町を実現します。

達成すべき目標と、これらの基本方針に基づいて、次のような3つの事業化プロジェクトを設定します。

森林系バイオマス高度利用プロジェクト

農業系バイオマス循環利用プロジェクト

廃棄物系バイオマス循環利用プロジェクト

表 4-1 事業化プロジェクト

プロジェクト名	バイオマスの種類	発生地	変換方法	利用方法
1. 森林系バイオマス高度利用プロジェクト	林地残材 スギ間伐材 広葉樹材	森林 (民有林、国有林)	直接燃焼	熱エネルギー
2. 農業系バイオマス循環利用プロジェクト	家畜排泄物 圃場残渣 おが粉	畜産施設 農地 チッププラント	堆肥化 メタン発酵	堆肥 燃料
3. 廃棄物系バイオマス循環利用プロジェクト	下水汚泥 食品残渣 生ごみ	公共下水・集落排水処理場 食品加工工場 宿泊施設 一般家庭等	メタン発酵	燃料